所ニ置て喰也、わけをせぬ事ニ而候、わけをせば我と膳を持て立也、左様候へば其日の座敷は出間敷候、湯は有間敷候、楊枝は膳ニ置也、さきを左ニ成也、五色之飯ニ而候也、

〔貞享四年〕江戸鹿子〔六〕諸職名匠諸商人

芳飯　目黒　浪屋

〔常の食喰様曳歌〕芳飯は米を刺割拵へて上に五色の干肴を置

同盛様

前青く左は赤よ向ふ白右は黒なり中に黄を盛

さい飯

〔大草殿より相傳之聞書〕一さい飯集養の事、本はんに食を盛候、上の盛ものは包飯のごとし、是はさいもなし、汁もなし、たゞすめみそ計也、くいやうは替る事なし、さいしんあるべからず、これは祝儀にばもちゐず、ひやしるばなんべんもあるべし、

〔禮容筆粹七〕さいばんはうばん之事

さいばんとは、めしにかやくを置てくふもの也、かやくを皿にもりて出す也、箸にてかやくをはさみ、めしの上に置くふ也、はうばんとは、右のかやくをめしの上にかけて出すをくふべし、汁はなきもの也、可心得、

〔名物六帖飲膳飲食穀核〕骨董飯

骨董飯

〔秋苑日渉八〕盤遊飯

魚肉雜味調蘇焜于飯面、曰盤遊飯、曰團油飯、曰社飯、曰骨董飯、曰王母飯、曰肉盦飯、此云箇麼苦飯、華夷花木考曰、仇池記、南人用酢脯膾炙埋飯中、曰盤遊飯、老學庵筆記曰、北戸錄云、嶺南俗家富者、婦產三日、或匝月洗兒、作團遊飯、以煎魚鰕雞、鵞、猪、羊、灌腸、蕉子、薑桂、鹽豉爲之、據此卽東坡先生所記盤遊飯也、二字語相近、必傳者之誤、通鑑宋哲宗紀曰、太皇太后不豫、呂大防范純仁問疾、太皇太后呼左右